

平成26年度 特別支援学校機能強化モデル事業 成果報告

(1) 特別支援学校のセンター的機能充実事業

団体名	国立大学法人 静岡大学
-----	-------------

【事業概要】

1. 事業実施前の現状と課題

(1) 推進地域（静岡市）の特別支援教育に関する現状と課題

静岡市には、静岡教育委員会が設置している特別支援教育センターがあり、特別支援教育に関する相談や支援を行っている。なお、静岡市には、知的・肢体・視覚・聴覚の、県立の特別支援学校（6校）と静岡大学教育学部（以下、本学）附属特別支援学校の合計7校の特別支援学校が設置されている。ここ数年、静岡市内の特別支援学校の特別支援教育コーディネーターが、幼保、小、中学校への巡回相談を行う等の連携をしており、特別支援教育体制が構築されつつある。

しかし、特別支援学校への教育相談は、個々のケースへの対応がほとんどであり、市内全体の特別支援教育コーディネーターの連携と資質向上という視点ではまだ十分とは言えない状況である。このことについては、本学附属特別支援学校が行なった25年度のアンケート結果によると、実際の指導における、特別支援教育に関する知識や指導法等、専門性向上を図るための研修や教育相談等へのニーズの高さが報告されている。

このため、推進地域の学校園の特別支援教育に関するニーズに応えるべく、本学附属特別支援学校では、特別支援部を中心に相談支援及び研修支援を行っているところである。

(2) 静岡大学教育学部の附属学校園の現状と課題

本学は、7つの附属学校園を有しているが、本事業の主な推進地域である静岡市には、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校の4校が設置されている。静岡市内の幼・小・中の学校園では、特別な支援のニーズのある幼児児童生徒に対して本学附属特別支援学校へ教育相談するケースが増えてきている。しかし、個々のケースの対応がほとんどであり、附属学校園間でそれらの情報共有はなされていない。また、研修などによる附属学校園全体の特別支援教育の充実が課題となっている。今後、幼稚園、小学校、中学校と連続して就学していく幼児児童生徒の中で、特別な支援が必要となるケースも予想される。このため、本学附属特別支援学校を中心とした附属学校間の連携がますます重要になってくると考える。

2. 事業を通じて得られた成果と課題

(1) 事業概要

本学附属学校園を含む静岡県中部地域（主に静岡市）の特別支援教育の充実と、学校間の連携強化に取り組むことで、本学附属特別支援学校のセンター的機能の充実を図ることをねらいとし

て取り組んだ。具体的な取組として、主にセンター的機能を担う本学附属特別支援学校の専門性向上をねらい、「【A】教職員の専門性向上、【B】特別支援教育の一貫性・継続性・系統性の確立、【C】ICT教材の活用」、の3項目に重点を置いた。さらに、本学附属学校園の連携促進をねらい、「【D】附属学校園を活用した幼小中一貫モデルの提案」に取り組み、それらで得た知見を推進地域の支援充実に活用すべく、「【E】静岡市内の学校園等への支援充実」に取り組むようにした。

全体の構想、取り組んだ5項目の関連性は図1のとおりである。

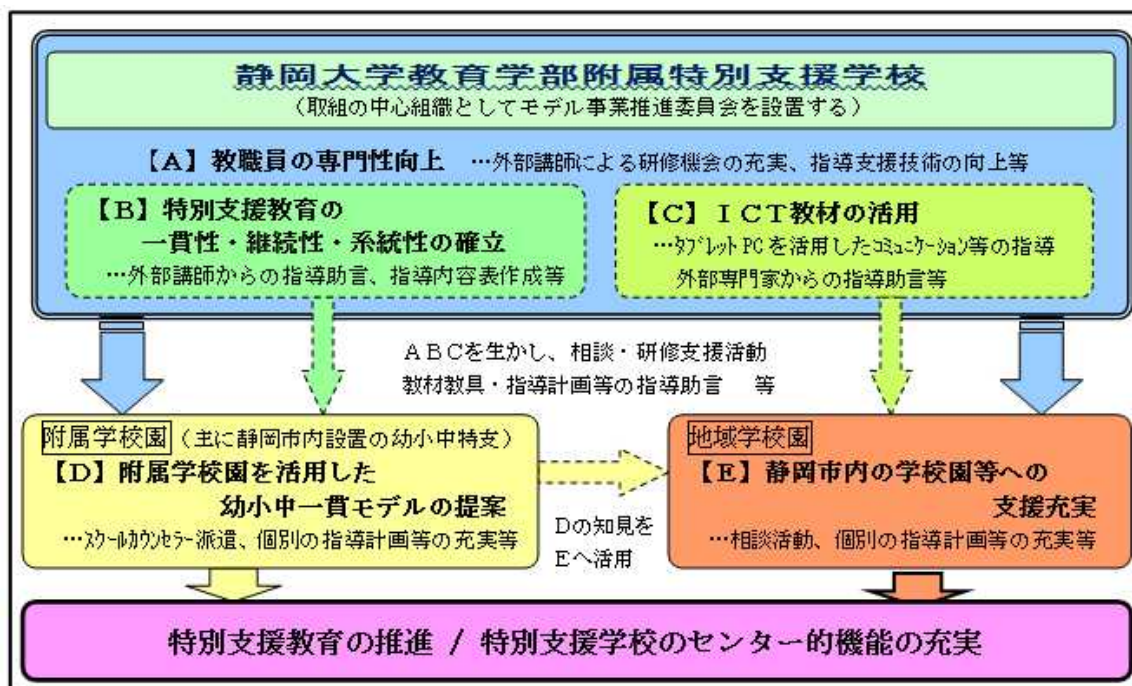


図 1

(2) 各事業項目 (A～E) で得られた成果と課題

【A】教職員の専門性向上

○本学附属特別支援学校だけでなく、推進地域の幼保園、小・中学校、高校、特別支援学校に開催を呼び掛けて、計13回の研修会を行った。参加した教職員及び関係機関職員等にアンケートを実施したところ、専門性の向上に役立ったとの回答が多数であった。また、そのアンケート結果から、今後高めていきたい専門性についても把握することができ、次年度以降の本学附属特別支援学校が開催する研修会の企画内容の参考にすることができた。

- ・本学附属特別支援学校教職員においては、特別支援教育（知的障害教育）の推進に関する一般的な知識向上と最新の教育課題への理解を図ることができた。さらに、センター的役割を担う校内教職員の今後の研修ニーズを把握することができ、本学附属特別支援学校並びに地域の学校園により良い支援をする素地ができた。
- ・静岡市のみならず、それ以外の地域の幼保園、小・中学校、高校、特別支援学校からの参加者も多く、特別支援教育に関する各専門的知識向上の機会のニーズが高いことが再認識できた。
- ・本学学部生、大学院生の参加もあり、次世代を担う教職員の養成も行うことができた。

○教職員の専門性向上に関する研修会で得られた知識技能は、地域学校園への具体的な支援方法として、本学附属特別支援学校の研究フォーラムにてポスター発表を行い、参加した地域の教職員に紹介した。

【B】特別支援教育の一貫性・継続性・系統性の確立

○本学附属特別支援学校において、小中高12年間のキャリア発達を促す授業実践の蓄積と支援技術の向上による指導内容表の作成に向けて、校内で共通理解を図ることができた。

○卒業後の生活を踏まえ、特別支援が必要な成人の方の支援をしている外部講師を招聘し、各学部を参観し助言を受けた。将来の社会生活に向けてという観点から、小中高の各学部段階でそれぞれ身に付けたい力について示唆を受けた。

○本事業で得られた知識技能は、地域学校園への具体的な支援方法として報告書（冊子）にまとめた。報告書（冊子）は、推進地域（静岡市）の学校園をはじめ、本校の学区の学校園、県内の特別支援学校及び全国の附属学校園に配付をした。

【C】ICT教材の活用

○先進的に取り組んでいる特別支援学校（養護学校）3校を視察し、本学附属特別支援学校での教職員研修及び実際の指導場面で実践活用を行った。

- ・学習支援ツールとしての活用では、活動の見通しをもつための支援ツールや、その場で記録したものがすぐに振り返ることができる利点を生かし、児童生徒の学習活動の振り返りでの即時評価の際の支援ツールとして活用した。その場で自らの行動を視覚的に振り返ることは、多いに有効だった。
- ・生活支援ツールとしての活用では、スケジュール管理や歯磨き等の身の回りに関することについて、生活の中で継続的に使用していくことで、児童生徒が主体的に活動することが増えた。
- ・学習支援・生活支援としてICT教材を媒体として教師や友達とのやり取りも広がり、コミュニケーション向上にもつながっている。

○ICT教材の活用に関する研修会で得られた知識技能は、地域学校園への具体的な支援方法として、本学附属特別支援学校の研究フォーラムにてポスター発表を行い、地域の教職員に紹介した。

○教職員のICT教材に関する知識技能の向上とともに、利点と課題を基に新たなツールの必要性を整理し、今後のICT教材の開発に生かしていく。

【D】附属学校園を活用した幼小中一貫モデルの提案

○本事業で、本学附属特別支援学校が中心となり、附属小・中学校に附属幼稚園も加え、各附属学校園のコーディネーターが集う連絡会（以下、附属学校園コーディネーター連絡会）を初めて実施した。年間で4回開催し、各学校園における特別支援教育に関する有効な支援を共通理解することができた。

○附属学校園コーディネーター連絡会や附属学校園の巡回相談について各附属学校園の職員により意識してもらえるように、連絡会誌『みんな なかま』を発行し、附属学校園内で周知するようにした。内容については、附属学校園の教員の特別支援教育に関する効果的な取り組みをはじめ、それぞれの発達段階に応じた支援方法、ケース会議の内容や本学附属特別支援学校が

実施した研修会の内容等を掲載した。

○静岡地区については、本学附属特別支援学校が窓口となり、一人のスクールカウンセラーを幼小中に派遣するようにし、児童生徒及び保護者の相談を行った。また、スクールカウンセラーは、附属学校園コーディネーター連絡会に必要に応じて参加し、情報の共有を図ることができた。

○本学の静岡地区の附属学校園のように、同一のスクールカウンセラーが対応することで、各附属学校間での情報の共有がしやすくなった。相談を受けている幼児児童生徒やその保護者にとっても、幼・小・中と一貫した支援を実施していく上でも非常に有効であると思われる。地域の幼稚園等を含めた中学校区内で同一のスクールカウンセラーが設置されることは難しい面もあるため、スクールカウンセラーを含めた関係者が一堂に会して情報共有できる機会が重要になるとと思われる。なお、推進地域からの要請があれば、相談支援を行っている本学特別支援学校の特別支援部が本事業で得られた知見をもとに、運営や調整を担っていきたい。

【E】静岡市内の学校園等への支援充実

○相談研修支援活動で、児童生徒の見立て方や具体的な支援技術の向上を図ることができた。

○ネットワークを活用した特別支援教育コーディネーター間の情報共有と障害種別の役割分担を生かし、幼保小中高の系統だった支援内容を共有した相談支援活動の実施につなげていくことができた。

3. 解決策（次年度の取組等）

（1）地域に発信する研修会等の実施

○今後の特別支援学校としての直接的な支援に関しては、推進地域の静岡市特別支援教育センターと連携しながら行っていく。特に次年度においては、特別支援教育センターとの情報交換の中で課題として挙げられている特別支援学級等に関わる指導担当者向けの研修支援を本学附属特別支援学校の特別支援部を中心に実施していく。また、初めて特別支援教育に携わる教員の指導の参考になるように、推進地域の特別支援学級等の優れた実践を情報収集するとともに、すぐに実践できそうな内容を定期通信等にまとめ、推進地域内の学校園に提供していく。

○特別支援学校の知見を提供する場として、研修会を計画的に地域に発信していくことが必要であると考え。本学附属特別支援学校以外の推進地域の県立特別支援学校においても研修会は実施されているため、様々なニーズに応えられるよう、特別支援学校間で連携しながら開催することが必要である。

○具体的な指導・支援法についてのニーズも高いことから、本学附属特別支援学校内の人材を活用した校内研修会に関しても、外部にも積極的に紹介していくことが求められると考える。さらに、大学附属校の利点を生かし、本学教育学部教員による研修の機会をより増やしていくことも、センター的機能の充実につながると考える。

（2）外部人材と連携した特別支援教育の一貫性・継続性・系統性の模索・確立

○本学附属特別支援学校の一貫性・継続性・系統性については、本事業をもとに校内でさらに研修を重ねていくとともに、引き続き卒業後の生活を踏まえて外部講師と連携し検討していく。

○児童生徒のライフサイクル全般を考えていくとすれば、出口である卒業後の生活だけでなく、入口である就学前の生活でどのような力を身に付けてきたかも大切な観点である。就学前から

卒業後それぞれの観点も含めて検討していくためにも、段階に応じた外部講師を招いて示唆をいただくことは有効である。

○本学附属特別支援学校で検討された一貫性・継続性・系統性のとらえは、推進地域の各学校園への巡回相談等のサポートにおいても生かされると考える。今後も、外部講師を招聘しつつ、本学附属特別支援学校の一貫性・継続性・系統性について模索し、確立していく。

(3) ICT教材の活用について

○ICT教材の活用について、本学附属特別支援学校の研究協議会等での実践紹介では、参加者から高い関心があり、地域の学校園でのニーズの大きさが伺えた。今後はコミュニケーションツールとしての活用をさらに進めていきながら、引き続き授業実践を紹介するとともに、ICTに関する研修会を実施していく。

○推進地域の学校園への教育相談支援の際には、各学校園の実情に合わせ本学附属特別支援学校での実践を紹介していくことで、推進地域でのICT教育の充実を図る。

(4) 附属学校園を活用した幼小中一貫モデルの提案

○幼小中一貫モデルの一つとして、本学附属特別支援学校が窓口となり、同一のスクールカウンセラーを幼・小・中学校園に派遣した上で児童生徒及び保護者の相談に対応し、附属学校園コーディネーター連絡会にも必要に応じて参加する体制を整備した。小・中学校とそれぞれの学校に兄弟が在籍する保護者に対し、同一のスクールカウンセラーがそれぞれの学齢の悩みに対応することにより、支援内容の情報共有がしやすくなる。スクールカウンセラーの配置や情報共有を図るための連絡会の実施等の学校間の連携は、地域の同じ中学校区となる小・中学校でのスクールクラスター（地域の教育資源の組み合わせ）のモデルケースのひとつとして提供していく。

○実際の中学校区でのスクールクラスターにおいては、それをつなぐための特別支援学校、地域の教育委員会の協力が必要である。そうした特別支援学校や教育委員会が担う役割、各小・中学校（コーディネーター）が担う役割をそれぞれ明確にしていくことが、地域の中学校区でのスクールクラスターが充実するために必要である。今後も引き続き、本学附属学校園の幼・小・中学校園のコーディネーター連絡会を中心とした幼小中の連携した一貫モデルをとおして、本学附属学校園のスクールクラスターの在り方について実践しながら、各々の役割を探り、それを地域の学校園に紹介していく。

(5) 地域の教育委員会との連携

○地域のスクールクラスターでの特別支援学校の在り方として、特別支援学校を含めた各小・中学校間のコーディネーターをつなぐとともに、コーディネーターの資質向上研修を提供することが有効である。こうした実践をとおし、各学校のコーディネーターの役割も明確になっていく。今後、附属特別支援学校が担うべきセンター的機能として、先ほど述べた（1）地域に発信する研修会の実施、（2）特別支援学校の一貫性・継続性・系統性についての提供、（3）ICT教材の活用の提供、（4）幼小中一貫モデルの提案の4点について、教育委員会と連携を図りながら実施していくことで、静岡市内の学校園等への支援や地域のスクールクラスターの充実を図っていく。

○推進地域の各機関・学校との連携の中で、教育委員会が担うもの、大学附属校だからこそでき

る役割を明確にし、大学附属校としての特別支援学校のセンター的機能について、実践を続けながら充実を図る。

【推進地域及び指定校一覧】

推進地域	指定校	
静岡市を中心とした 静岡県中部地域 (本学附属特別支援学校(以下「本校」)の学区は富士川以西大井川以東の静岡県中部地域)	1	静岡大学教育学部附属特別支援学校